

(元気象研究所)を委員長とする、気象協会内に設けられた委員会で審議されて作られた。池田弘氏(英弘精機株式会社技術顧問)には多くの御教示を頂いた。本装置の製作は日本自転車振興会からの補助金によるものである。両氏ならびに同会に対して厚く御礼を述べる。

### 文 献

Funk, J.P, 1959 : Improved polythene-shielded net radiometer, J. Scientific Instruments, 36, 53-

56.

Kano, M., M. Suzuki and A. Yata, 1973 : On the Calibration of the Radiometer for Long-wave Radiation ( I ), Papers in Meteorology and Geophysics, 24, 249-261.

WMO, 1983 : GUIDE TO METEOROLOGICAL INSTRUMENT AND OBSERVING PRACTICES, WMO, 9. 32-9. 34.

青島 武, 矢崎利昭, 三宅行美, 1975 : 放射収支計の改造とその特性, 日本農業気象学会秋期大会講演要旨, 日本農業気象学会, 32.



## 自然災害の影響に関する UCLA 国際会議論文募集

期 日 : 1991年7月10日~12日

場 所 : カリフォルニア大学ロスアンゼルス分校

自然災害をテーマにした国際会議がカリフォルニア大学ロスアンゼルス分校(UCLA)で開催されます。この会議は、ULCAの国際研究・海外プログラム(ISOP)の主催で、ラテンアメリカセンターと環太平洋研究センターが支援しております。共催機関には、アメリカ国際グループ(AIG)、カリフォルニア地震安全委員会、ロスアンゼルス市、ラテンアメリカ・カリブ海経済委員会(ECLAC)、連邦緊急管理局(FEMA)、アメリカ海外災害援助室(OFDA)、国際連合地域開発センター(名古屋)(UNCRD)、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)およびアメリカ地質調査所(USGS)であり、汎アメリカ保健機関(PHAO)と世界保健機関(WHO)が協力しております。

会議は、自然災害の多くの事例からアイデアを抽出し、局地的なレベルや、国内外および国際的レベルでの重大な災害が及ぼす影響について、総合的な研究方法の確立を目的としております。ここでいう災害は、地震、暴風雨、洪水、火山爆発、大規模な山火事、早魃および環境的な問題をも含む広範にわたるものを対象としております。会議は、学際的な学術団体、政府および民間企業の専門家を参集して、調査研究および過去の経験を発表し、必要とされる調査研究、軽減活動および適切な政策の将来にわたる協議事項を議論するものです。

論文発表を考えている方は、1,000語程度の要約と、簡単な略歴を1990年12月15日までに提出して下さい。本

論文の締切は、1991年4月15日までです。論文執筆などの詳細については、予定の論文執筆者に受理の通知の時に送付します。論文集については、後日出版することを考えています。

主要テーマは、以下の通りです。

—以下の側面での自然災害の影響

- ・経済的
- ・環境的
- ・法律的
- ・医療および保健の側面
- ・物理的および技術的
- ・政治的
- ・社会的側面

—自然災害の保険の側面

—将来的・国際的・学際的協力

要約の送付および詳細については、以下にお願いします。

Prof. Samuel Aroni

Conference Chair

GSAUP, UCLA

Los Angeles, Cal. 90024

TEL : (213) 825-7430

FAX : (213) 206-5566

問合せ : 国際連合地域開発センター地域防災ユニット

和泉 潤

TEL : (052) 561-9377, FAX : (052) 561-9375